レスポンシブル・ケア®

三菱ガス化学株式会社

新潟工場

環境・安全報告書

レスポンシブル・ケア

2020年度

MGC

目　次

頁

◆ はじめに …… 2
◆ 新潟工場の概要 …… 3
◆ 新潟工場 環境･安全･品質方針 …… 5
◆ 新潟工場の環境･安全活動 …… 6
　◇ 年間目標と重点項目 …… 6
◆ 新潟工場の環境･安全活動概況 …… 7
　◇ 環境保全 …… 7
　　省エネルギーの推進
　　産業廃棄物排出量の削減
　　大気、排水、臭気、騒音への対応
　　リサイクルへの取組み
　◇ 労働安全衛生 …… 11
　　安全活動
　◇ 保安防災 …… 12
　　保安防災活動
　◇ 化学品安全 …… 12
　　品質･安全管理の徹底･顧客満足度のアップ
◆ 地域社会との交流 …… 13
◆ 新潟工場への代表的な質問 …… 14

はじめに

新潟工場長　菅野　公一

三菱ガス化学株式会社新潟工場は、阿賀野川の豊富な水と緑の環境の中で、自然と調和しながら新潟地区に多量に埋蔵された天然ガスをベースにユニークな技術開発・製品開発を行っています。当工場の蓄積された技術や化学製品群は国内に留まらず、世界へ向けて供給しており、持続可能な社会発展に貢献すると共に、こうした技術をのちの世代へ繋げていく運営を目指しています。

環境安全において、「事業活動の最優先は安全の確保」という三菱ガス化学グループの安全理念のもとコンプライアンスを遵守し、安全安定運転を徹底して追及し、また、品質においても社会に与える影響は大きなものがあることから、環境安全と併せ、品質保証強化に努めております。

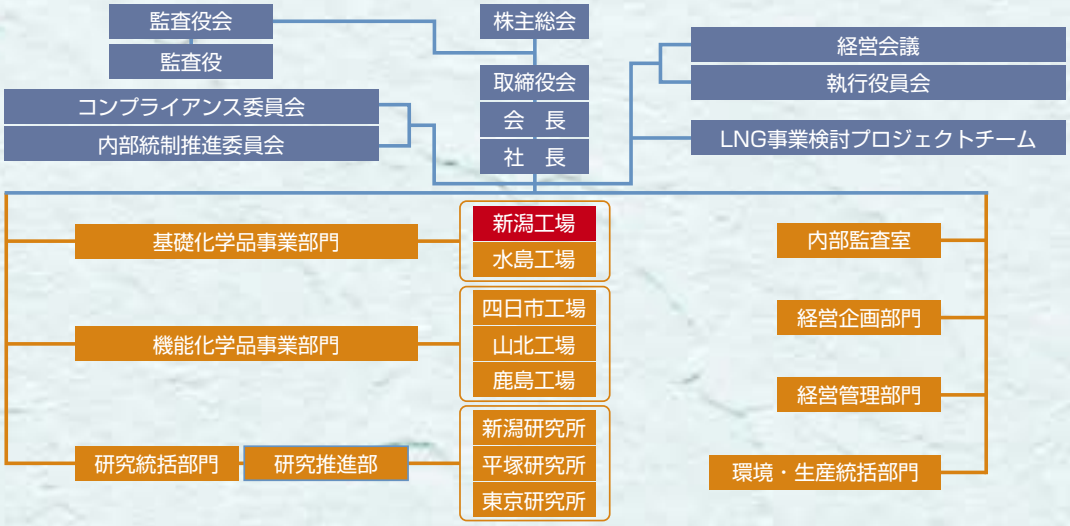
今後も、皆様の安心と信頼を獲得し、地域社会の活性化に貢献できる工場に育てていきたいと切に考えております。本レポートは、新潟工場における保安防災、環境保全にかかる自主活動等　レスポンシブル･ケア（ＲＣ）活動の昨年一年間の実績を写真、図、データ等で皆様にご報告するものです。ご一読いただき、当工場の活動にご理解をいただく一助となれば幸いです。

今後もより一層のご支援とご指導を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

新潟工場の概要

当社の構成

当社は従来採用してきたカンパニー制を廃止し、2020年4月より事業部門制を新たに採用いたしました。新潟工場は基礎化学品事業部門に属します。組織を改編したことで、従来の4つのカンパニー内での意思決定という部分最適を減少させ、全体最適の指向となりました。また研究所のあり方を研究推進部所属に統一したことにより全社一括管理となりました。



新潟工場の概要

当工場は、日本海を戴く越後平野に立地し、阿賀野川の豊富な水と緑の環境の中で、自然と調和しながら、新潟地区の豊かな天然ガスをベースに、独自技術展開により発展を遂げてきました。

昭和27年、新潟市内榎地区での天然ガスを原料としたメタノール合成プラントをスタートにし、アンモニア･尿素およびその誘導品（ホルマリン、メチルアミン、青酸、メタキシレンジアミン（MXDA）等）の展開、事業化を行ってきました。天然ガスを起点とする展開はさらに、メタクリル酸エステル類、合成樹脂（MXナイロン、特殊ポリエステル、特殊アクリル系樹脂、シアネート樹脂等）、電子工業薬品（超純アンモニア水等）、ライフサイエンス製品へと拡がっています。

また、当工場では、CO_2排出が少ないクリーン燃料として、工場内のエネルギー供給に天然ガスを利用しているほか、スチームを工場内で発電に利用する等、特徴ある天然ガス系化学工場となっています。

- 所 在 地　新潟市北区松浜町3500番地
- 敷地面積　740,966㎡（石災法上のレイアウト規制面積）
- 従業員数　458人（2019年12月末）
- 売 上 高　475.8億円（2019年度）

認証取得

◆国際標準の導入

当工場は、品質管理や環境保全に国際標準を積極的に導入し、社会からの信頼の向上に努めています。1995 年 1 月に ISO 9001 を、1998 年 6 月に ISO 14001 を認証取得しました。認証取得以降毎年定期監査と 3 年毎の更新監査を受審しています。

ISO9001 認定証

ISO14001 認定証

ISO9001、14001 共に 2015 年度版への移行を致しました。

◆高圧ガス認定取得

当工場は 1956 年に高圧ガス製造許可を得て以来、60 余年間に亘り高圧ガス製造技術の向上と共に化学製品を市場に安定供給し続けています。

操業開始以来、工場の保安技術の改善を進めており、自主保安体制が確立した事業所として 2000 年に高圧ガス認定完成（保安）検査実施者を取得し、その後 2005 年、2010 年、2015 年と、5 年毎の更新審査を経て引き続き安全に運転を実施しています。

自主保全をさらに推進し、安全・安定運転のため、より一層の保安技術の研鑽に努めてまいります。

◆ボイラー等の開放検査周期認定取得から更にその更新認定に向けて

1997 年 12 月にボイラー及び第一種圧力容器について、運転や保守に関する管理体制が確立し、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われていること等が認められ、基準を満たした 2 年連続運転（開放検査周期）の認定を取得しました。以来、開放検査周期認定を取得した機器を徐々に増やしており、当工場のボイラー等の安全保安管理は高い評価を受けています。

Team ECO 活動

UX Team ECO の主催する環境を見直すプロジェクト（Team ECO ～自然派宣言～）に、当社は 2018 年より特別協賛で参加しています。2019 年は 2018 年に植樹したクロマツ周辺の雑草を根から除去し、クロマツの根を張りやすくする作業を実施いたしました。

新潟工場 環境・安全・品質方針

環境・安全・品質方針

三菱ガス化学新潟工場は、クリーンエネルギーである天然ガスを生産、利用して特色のある化学製品を製造している天然ガス系化学工場です。

当工場は、「事業活動の最優先は安全の確保」を事業存立のための基盤とし、「環境負荷低減」「安全・無事故無災害」「安定操業・顧客満足」を目標に掲げ、ＭＧＣグループ「環境・安全方針」「ＭＧＣ品質方針」「環境サステナビリティ宣言」に基づき、地球環境と地域に調和した安全で明るい工場を目指し、より良い製品を提供する生産活動に努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

1. 環境・安全・品質関係の法令、協定、社内規程を遵守する。
2. 品質を通じて顧客満足の獲得を図るとともに、環境・安全を通じて地域との共生を図る。
3. 設備の保安管理を確実なものとし、自主保安技術の向上に努めると共に、事業活動において保安に影響を与える危険源への適切な対処に努める。
4. 環境・安全・品質及びＲＣマネージメントシステムを確実に運用管理し、継続的に改善・向上させることにより、環境汚染、事故災害、不良品発生を未然に防止する。
5. 環境・安全・品質方針に従い、目標を設定し、定期的に見直すと共に、具体的な活動計画を策定し、その達成に努める。
6. 教育、社内広報活動を通じて、当工場の全従業員に、環境・安全・品質方針を周知させると共に、社外にも公開する。

2020 年 1 月 1 日

三菱ガス化学株式会社
新潟工場　工場長
菅野 公一

三菱ガス化学株式会社

新潟工場の環境・安全活動

年間目標と重点項目

	全社基本方針	活動目標	具体的な実施事項
労働安全衛生	操業における健康、安全の確保	①ヒヤリ気懸り提案活動、非定常作業時におけるKY活動、TPM活動等を通じ一人ひとりの危険への感性向上活動を継続し、協力会社を含めた労働災害撲滅を目指す。 ②NFおよび他事業所や他社での災害事例を有効活用し、注意喚起方法の充実を図る。 ③各種安全活動を通じ、ヒューマンエラー防止を図る。 ④協力会社の労働災害を防止すべく、安全情報の共有化、協力会社の安全活動の協力・支援を推進する。 ⑤適切な作業環境を維持し、改善への活動を推進する。	◆全員参加のヒヤリキャンペーンを年４回実施し、提案された事例を解析し安全衛生委員会を通じて啓蒙する。 ◆工場および他事業所や他社での災害事例を情報連絡書で周知するとともに、工場で水平展開すべき対策について積極的に各部署へ調査・要請する。 ◆安全標語募集で「挟まれ・巻き込まれ」「墜落・転倒」をテーマに加え注意喚起を行う。 ◆外部講師によるヒューマンエラー講演会を企画する。また安全道場を通じ、ヒューマンエラー防止を図る。 ◆災害防止協議会やTPM活動、各種道場の協力会社への開放、各WG活動等を通じ、協力会社の労働災害防止を図る。 ◆適切に作業環境測定を実施する。各部署は、新規作業において化学物質に係るリスクアセスメントを確実に実施し、作業員へのリスクの周知および改善活動を推進する。 ◆作業記録のフォーマットの作成、記録管理を確実に行う。
保安防災	現場における保安と安心の確保	①生産技術部と協調し設備管理の充実を推進する。 ➢外部腐食管理を確実に実施し、再発防止に努める。 ➢保安管理システムの維持・改善。 ②NFおよび他事業所や他社での災害事例を有効活用する。 ③NFの危険源の抽出およびリスクアセスメントを推進する。 ④保安力評価（安全基盤）を有効に活用する。 ⑤教育訓練の充実、確実な実施。	◆本社生産技術部と協調し保全水準評価を受けた改善活動を継続する。 ◆外部腐食 新全体管理に従い計画通り進める。 ◆新全体管理の実施状況を評価し、新技術の導入など継続して改善を図る。 ◆工務部と製造部門の定例会を計画通り実施し、検査結果に基づく設備保全について進捗管理を継続して行う。 ◆関係省庁やKHK等からの指摘やコメントを反映し、適切に要則類の見直し等を行い、保安管理システムの維持・向上を図る。 ◆安全審査の確実な実行および非定常リスクアセスメントを推進し、特に非常時リスクアセスメントについては、各部署計画的に進める。 ◆各部署は、保安力評価での弱みについて計画的に改善を図る。 ◆各道場へ積極的に参加する。 ◆適切な訓練を計画し実施する。 ◆緊急時対応訓練を計画し実施する。
環境保全	環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献	①環境部会の目標・計画に従う。 ②工業用水の管理の徹底。 ③生物多様性保全への取り組み推進。 ④環境側面を行い、PDCAを廻し改善を図る。	◆「環境管理計画」の遂行（具体的計画は品質・環境管理委員会にて決定）。 ◆各部署は、活性汚泥へ送水する廃水管理を適切に行うとともに、動力資源課と協力し、非定常に使用する工業用水の削減を図る。 ◆事業所近隣の地域のクリーン活動や森林保全活動などに積極的に参加・協力する。 ◆著しい環境側面の改善を計画的に行う。エアコンの更新、幹線道路のLED化により寒容負荷低減を図る。 ◆周辺住民へ与える環境影響（騒音、振動、臭気など）の低減を継続的に立案、実行する。
化学品・製品安全	化学品の取扱い・使用・廃棄における安全の確保	①製品及び原料SDSの最新版への反映と周知。 ②新製品開発時における安全性事前評価の実施。 ③品質に関する教育やリスク評価の実施。 ④工場製品の国外規制対応の実施。	◆SDS最新情報の毎月の定期監視と工場内へ周知する。 ◆新JISに対応した製品ラベルへの移行を継続する。 ◆原料SDSの最新版を入手し周知する。防災に係る物質は、必要時に速やかに取り出せる場所に継続して維持・管理する。 ◆変更内容に応じた環境安全品質審査を確実に実施する。 ◆必要に応じ、品質に関するリスク評価や教育を計画する。 ◆講習会などを利用し国内外規制に対する知見を深める。
物流安全	原料・製品の物流における環境・安全の確保	物流関連のトラブル集計と解析、水平展開を図る。	◆物流関連トラブルの集計と解析、水平展開を図る。 ◆物流関連会社に安全監査を計画、工場内の協力を以て実施する。 ◆物流交通事故の発生を想定した訓練を企画、他事業所や協力会社の協力を得て実施する。
社会との対話	ステークホルダからの信頼醸成	①環境安全報告書の発行。 ②社会・環境への貢献活動への参加と地域社会との対話を推進する。	◆環境安全報告書を発行する。 ◆近隣交流行事への参加、近隣自治会会議への参加を通じて社会とのコミュニケーションを図る。 ◆日化協主催の他地区RC地域対話へ参加を検討する。
RC全般		①本社関連部門と工場の連携強化を図り、RC管理システムの継続的改善を促進する。 ②安全保障輸出管理を継続的に維持・改善し確実に遂行する。	◆生産技術や保全管理技術、環境安全など各事業所との情報交換を行い、改善を図る。 ◆各部署は、各種監査での指摘事項等の対応を確実に行う。 ◆本社研修会や外部講習会などを利用し、安全保障輸出の知見を深め、適切に管理する。

新潟工場の環境・安全活動概況

環　境　保　全

三菱ガス化学㈱新潟工場は、新潟工場「環境・安全・品質方針」、三菱ガス化学グループ「環境サステナビリティ宣言」に基づき環境・保全活動を推進しています。

＜三菱ガス化学グループ　環境サステナビリティ宣言＞
三菱ガス化学グループは、気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、地球規模での環境の健全性を意識した行動を通じて、将来にわたって持続可能な社会発展の実現に貢献します。

1．エネルギーや原材料、水などの資源に関して環境影響の少ない調達を心掛け、資源の効率的な使用を推進します。
2．温室効果ガスや環境汚染物質などによる環境負荷の削減対策を推進します。
3．リサイクルなどを通じて廃棄物を削減すると共に、廃棄物を適正に管理・処分します。
4．環境負荷の軽減や環境の回復・健全化に貢献する製品や技術の開発を促進・普及します。
5．事業所の所在地における環境関連法令や、国際的ルールを遵守します。
6．環境に関する取り組み情報を開示し、社会との良好なコミュニケーションを保持します。
7．教育を通じて環境問題への意識向上を図ります。

省エネルギーの推進

◆省エネルギーの実績

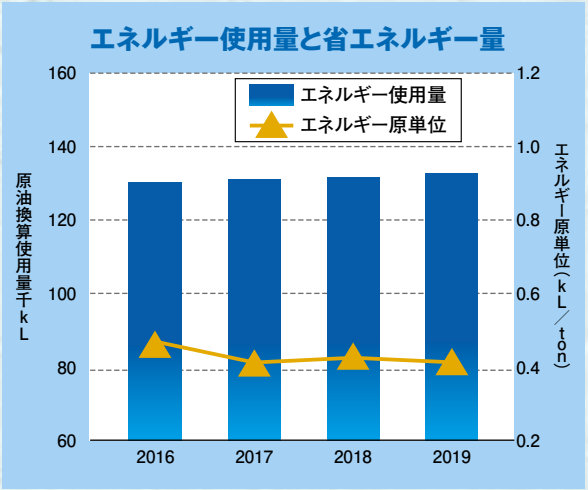
新潟工場では、エネルギーを合理的かつ有効に使用することによって、地球温暖化防止に貢献するとともに、限りある資源の有効利用を図り、環境にやさしい工場とすることを目的として省エネルギー活動を実施しています。

活動の目標を、2018 年より 3 か年計画（新潟工場のエネルギー原単位を 2.2% 改善（12 万 GJ 削減）* することを目標と致しました。

2019 年の単年度の目標数値は、エネルギー原単位 0.74％（4 万 GJ）* を削減するとし、安定運転による生産量増加が寄与し、目標数値を達成することができました。

今後も更なる省エネルギー、エネルギー使用量の削減に努めます。

* 年間生産量 30 万 ton をベースに換算



＜ 2019 年度の取り組み＞

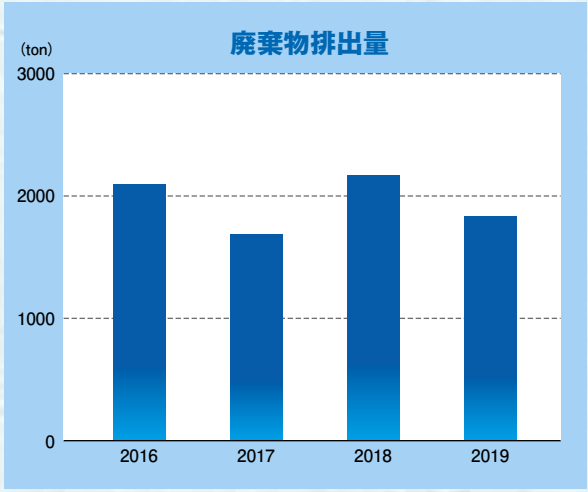
- 安定運転の継続（トラブル削減）、保温保冷やスチームトラップの適正管理、不良スチームトラップの交換の実施
- 夜間消灯による電力削減
- 水添反応器切り替えによるスチーム削減
- BPSTM 導入によるスチームロス削減
- 水銀灯の LED 化
- 幹線道路灯、事務所蛍光灯の LED 化
- 旧式エアコンの計画的更新　　等

産業廃棄物排出量の削減

◆産業廃棄物の委託処理量の実績

2019 年の廃棄物排出量は 2018 年実績を若干ではありますが減少することができました。これは運転時に発生する廃棄物を再利用する等の努力の結果です。

定常作業における削減は進んでいますが、2020 年度は非定常作業における汚泥発生量を約 1,500t 排出することが確定していますが、引き続き安定運転に努め、産業廃棄物削減に取り組んでまいります。

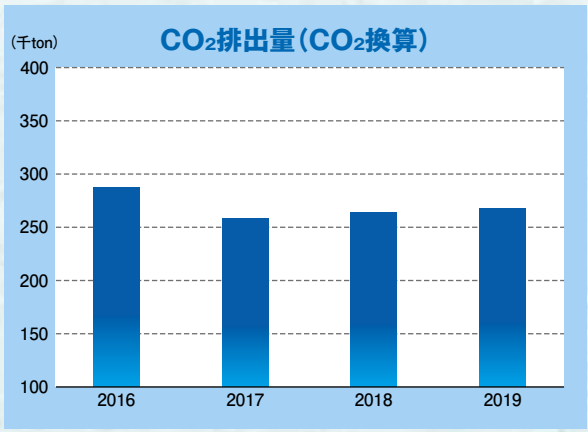


大気、排水、臭気、騒音への対応

◆ 大気汚染の防止

＜二酸化炭素（CO_2）の排出実績＞

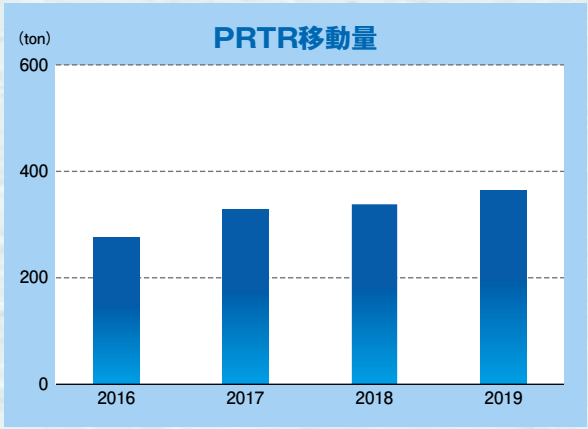
2015 年のアンモニア装置の停止に伴い、工場内電力デマンドと合わせ発電を最適化することにより CO_2 排出量が大幅に減少しました。その結果、CO_2 発生量は 2018 年とほぼ同数となりました。



【記】この数値は、購入電力の発電時に排出される CO_2 を含んでいます。

＜ PRTR*への対応＞

PRTR 移動量とは PRTR 物質の大気への排出量、事業所外への移動量、下水道への移動量等の合計数値を表しています。2019 年度は製品生産量増加に伴い微増いたしました。引き続き PRTR 移動量の抑制に努めます。



*PRTR　(Pollutant Release and Transfer Register)
汚染物質排出・移動登録制度

事業者から、大気、水質、土壌への化学物質の排出量および廃棄物の移動量について、行政機関がデータ収集・整理し、社会に公開する制度。2002 年度から実施、対象となる化学物質（第一種指定化学物質）は 462 物質。当工場で対象となる物質は以下の通りです。

・エチレンオキシド　・エピクロロヒドリン　・無機シアン化合物
・ジクロロメタン　・ホルムアルデヒド　・メタクリル酸
・メタクリル酸メチル　・メタクリル酸エステル類

◆排水管理の徹底

＜活性汚泥処理設備＞

当工場の製造工程から排出される排水は、微生物の働きを利用した活性汚泥装置により清澄な水に浄化しています。

新井郷川への放出口には緊急遮断弁を設置しており、万が一工場内の排水に異常があったとしても、工場外へ異常排水を流さないシステムを構築しています。

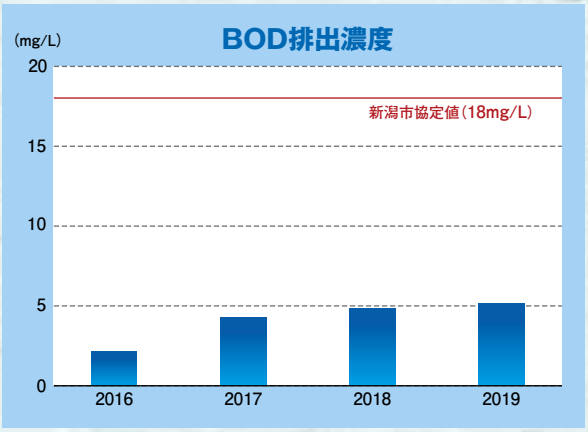
高速凝集沈殿装置
（汚泥を沈降させ、澄明な上水を放流します）

総合排水路出口の緊急遮断弁
（異常排水を新井郷川に流さないための設備です）

・BOD*の排出濃度の実績

当工場の製造工程から排出される汚水を、活性汚泥処理設備で処理し、BODを一般河川と同等レベルまで処理した後、新井郷川へ放流しています。

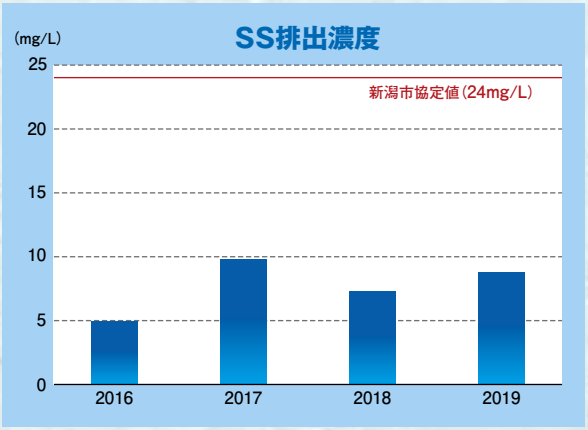
*BOD（生物化学的酸素要求量）は水の汚れを示す指標で、微生物が汚れを分解する時に消費される酸素の量をいいます。



・SS*の排出濃度の実績

活性汚泥設備の安定運転に努める事により、SSの排出濃度を適正管理しています。

*SS（浮遊物質量）は水の濁りを示す指標で、工場から出る濁り分の他に原水（阿賀野川）の濁りも影響します。



◆臭気の削減

工場から臭気を出さない事は勿論ですが、24時間監視の臭気センサーやガス検知器を工場各所に設置し、もし臭気が出た場合でも、すぐに検知し調査･対応が図れる監視体制を構築しています。

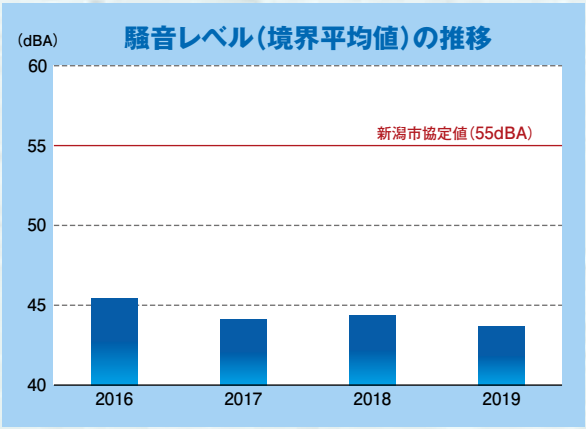
表門守衛所の臭気センサー及びガス検知器

表門守衛所の臭気連続監視画面

◆騒音の削減

騒音源の多い製造施設を中心に、吸音材の施工や消音器、防音壁の設置等騒音発生源での対策に加え、敷地境界への植栽面積を増やし、継続的に騒音レベルの低減に努めています。

また、周辺地域における騒音測定も定期的に実施し、状況監視に努めています。



注）データは春秋及び昼夕夜の敷地境界の測点平均値

植栽

防音壁

リサイクルへの取組み

事務用紙の使用量の管理、事務用品のグリーン購入* を進め、環境への負荷軽減に努めています。
会議ではプロジェクターの有効活用の推進に努める一方、事務用紙の使用量削減を行っています。

* グリーン購入

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際、環境を考慮し、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

労 働 安 全 衛 生

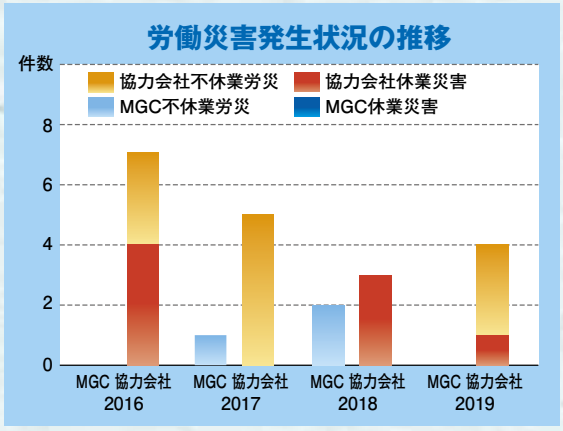
安全活動

◆労働災害発生状況の推移

三菱ガス化学㈱新潟工場の休業災害件数は 2011 年度よりゼロ件を継続していますが、協力会社では休業 1 件、不休業 3 件と、休業労災数は増加してしまいました。

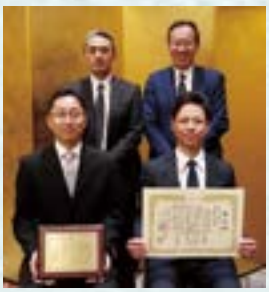
引き続き協力会社との連携を強め、様々な対策を進め、労災ゼロを目指します。

管理者によるパトロールの様子



◆「新潟ゼロ災宣言運動　ゼロ災達成証」の授与

事業者の安全衛生の関心を高めるとともに、その水準を高めることを目的とした、厚生労働省新潟労働局にて実施している新潟ゼロ災宣言運動に当工場も参加し、2017 ～ 2019 の 3 年間ゼロ災を達成し、その達成証を授与して頂きました。



◆第 13 回日本化学工業協会　日化協 RC 審査員特別賞受賞

当工場は、日本海からの潮風によって引き起こされる配管の保温材下腐食（CUI）が長年の課題となっています。この CUI の発生パターンを纏め、各々の発生メカニズムを調査、それに基づく保温施工基準を見直し、CUI 由来の漏洩撲滅をまとめた「プラントの外部腐食対策」が、製造現場における地道な小集団活動がボトムアップにより展開され、大きな成果をあげた好例として、日化協 RC 審査員特別賞を受賞いたしました。

◆無事故・無災害に向けての取組み

製造現場での設備技術、運転管理技術の向上を図る場として、技術教育研修館を開設し、ミニプラント等を教材とした「保全道場」、運転訓練シミュレーターを用いた「プロセス道場」、現場安全を主眼とした「安全道場」を開講したほか、定修に参加する協力会社作業員を対象に危険体感訓練を実施し、積極的に人材育成に取り組み、力量の向上に努めています。

危険体感訓練の様子

保 安 防 災

保安防災活動

◆防災訓練

当工場は、多くの可燃性の化学物質を取り扱っています。そのため､万一に備え自衛消防を組織しています。年に１回、新潟市消防局、西港共同防災㈱と連携して消火活動を行う総合防災訓練を行っています。

2019 年の総合防災訓練は、地震発生に伴いラック上の配管からアンモニアが漏洩、同時に協力会社の作業員１名が被液したという想定で、工場内の協力会社にも参加していただき行いました。

そのほか、地震・津波想定の避難訓練、夜間の緊急連絡・駆付訓練や消火器での消火訓練、消火栓による放水訓練、物流事故を想定した訓練等を実施しています。

総合防災訓練

物流事故想定訓練

化 学 品 安 全

品質･安全管理の徹底･顧客満足度のアップ

当社は、「MGC 品質方針」を定め、製品の品質管理の徹底及び顧客の満足度をアップするよう努めています。

＜ MGC 品質方針＞

三菱ガス化学（MGC）は、

１．社会のニーズに応え､有用で安全性および信頼性の高い､優れた製品･サービスを提供し、お客様･消費者のご満足とご信頼を獲得します。

２．製品・サービスの品質保証が重要な経営課題であることを認識し、品質の維持・保証・改善のために必要な資源（人々、インフラストラクチャ、プロセスの運用に関する環境など）(注)を確保します。また、品質教育を充実し､社員の品質に関する意識向上と知識獲得に努めます。

３．品質保証・品質管理部門はもとより、研究開発、製造、調達・物流、営業など、品質に対して密接に関連する各部門においても、品質の維持･保証･改善に関して高い意識を持ち、それぞれの職責を果たし、品質保証活動の継続的改善に邁進します。

（注）品質マネジメントの国際規格である ISO9001：2015 版 7.1 対訳から引用

耐熱性と非晶性を両立した
新規ポリエステル「アルテスタ™」

ISO9001、14001 の認証取得による安全・品質管理はもちろんのこと、製品、原材料、中間体や廃棄物に至るまで SDS* を完備しています。また、万が一の物流事故に備え応急措置時の安全情報を記載したイエローカードの携帯、小型容器イエローカードを導入等、徹底した安全管理の強化に努めています。

* SDS（SafetyDatasheet）製品安全データシート

化学製品を安全に取り扱うために必要な情報（物理的 / 化学的性質、危険性、有害性など）を記載した小冊子。化学製品の事故・災害を未然に防止することを目的に、供給者から使用者や取扱事業者に製品毎に配付します。

地域社会との交流

私たちは地域社会との共生を目指して、さまざまな機会を利用して地域の皆さんとのコミュニケーションを図っています。

毎年、新年に行われる松浜・南浜・濁川の3地区合同出初め式に、当工場の化学消防車も参加し、地域の防災行事に協力しています。

新潟工場では、夏、冬の2回献血を行っており、毎回多数の参加をしていただいています。

周辺住民や学生等、幅広い皆様に工場を見学して戴いております。
(写真：新潟県消防学校による工場見学風景)

毎年行われる春・秋の交通安全週間中、地域住民の道路横断者の安全を目的として旗振りを行っています。

秋の衛生週間行事の一環として、工場周辺のゴミ拾いを実施しました。参加者全員の歩行数から算出した移動距離の合計はほぼフルマラソンと同じ位でした。

「新潟まつり大民謡流し」に毎年参加し、地域との親睦と融和を図っています。'18年に作成した、自社独自の山車・プラカードを掲げ、「新潟甚句」を舞いました。
(2020年は新型コロナウイルス対策のため新潟まつりは中止となりました。写真は2019年のものです)

◆新潟工場への代表的な質問

Q 夜になると煙突から炎が出ているのが見えることがありますが、火事ではないのですか？

A これは火事ではありません。
上の写真はフレアスタックと呼ばれる設備です。ガスを煙突の先で安全に燃焼させ、ガスに含まれる有害成分を焼却することでガスを無害化する処置を行っています。

Q たくさんの白い煙が出ていますが、身体に害はないのですか？

A 上の写真は冷却塔と呼ばれる装置です。この装置から出る白い煙のほとんどは水蒸気で人体には影響がありません。
当工場は新潟市と公害に関する協定を結んでおり、煙突から大気に放出するガスに関して、窒素酸化物量、硫黄酸化物量等が規定されています。定められた項目に関して、大気に放出するガスを測定し、協定範囲以下であることを確認しています。

Q 夜も明るく照明がついていますが、どうしてですか？

A 当工場は 24 時間 365 日休みなく操業しています。そのため、安全を確認するため、パトロールを適時実施しています。
夜間において、従業員が安全に移動し、各種確認作業をするため、照明を設置しています。

Q 工場で災害などが起こったらどうするのですか？

A 工場内には化学消防車を配置し、万一災害が発生した場合に備えています。
災害が発生した時は、直ぐに消防署に通報するとともに、緊急時には防火防災隊と呼ばれる自営防災組織を設置し、災害に対処致します。また、新潟西港共同防災㈱とも協力関係にあり、協同で災害に対処するシステムとなっています。

●お問い合わせ

三菱ガス化学株式会社

新潟工場

環境安全室　環境安全グループ

〒950-3121　新潟市北区松浜町3500番地

TEL・FAX（025）259-3945

このパンフレットは
再生紙を
使用しております。